

# 管粥のお告げは？ 逢坂八幡神社

旧暦の1月15日にあたる2月8日に、逢坂八幡神社（松河原）で管粥神事が行われました。

「管粥神事」は、江戸時代から続く逢坂八幡神社の伝統行事です。集落から持ち寄った白米と24本の竹筒を鉄鍋で煮て、竹筒に詰まった粥の量で、その年の農水産物の豊凶を占うもので、粥の量が多いほど豊作とされます。

神事のあと、各集落の総代の皆さんが見守る中、管粥が炊かれ、粥の詰まり具合を逢坂八幡神社の太田貴能禰宜が確認していきました。



▲竹筒をあけ、詰まり具合を確認していきます

海藻やサワラ、イカが十分、昨年二分だったブロッコリーは六分といった結果になりました。また、農水産物全般を占う『大年（おとし）』の竹筒が、十分と告げられると「よし！」の声があがりました。

総代を務める高見英毅さん（松河原）は、「近年まれに見る好結果となり、ほっとした。この結果に慢心せず、皆で精進して良い一年になるようにしたい」と話されました。

# 動画コンテストで優秀賞！

鳥取県が募集した「とっとりの魅力発信PR動画コンテスト」で、大山テレビ部製作の「イナカの中学生 心の叫び」が、応募数42作品の中から優秀賞に選ばれました。

大山テレビ部は、大山チャンネルの番組制作を手がけるアマゾンラテルナ大山オフィスの呼びかけでできた、大山町住民で作る映像クラブです。応募した映像作品は、中学生の部員たちが「身近な日常に感じた大山町ならではの

のおもしろさ」を切り口に、中学生目線で紹介した動画です。

昨年12月に開催の「令和新时代とっとり元気フェス」で表彰式が行われ、テレビ部からは、動画撮影に関わった村岡凜さん（米子西高2年）が出席し、賞状を受け取りました。

この入賞作品は、県のホームページから閲覧できるほか、2月5日から米子鬼太郎空港で上映されています（終期未定）。

# できたよ！わたしのひなさま

フェルト生地を使って、ひなかざりを作る講座（図書館大山分館主催）が、2月1日に大山公民館で行われました。

今回のひなかざりは、着物・尺・顔・髪・かんむりといったフェルトのパーツを、毛せんに見立てた台紙に貼り、お内裏様とお雛様を作ります。あとは、ペンで顔の表情をつけ、ラインストーンやスパンコール、水引で飾りをつければ完成です。各パーツの配置・配色の具合や、

目の大きさ、ラインの太さなどで表情に変化が生まれ、参加者それぞれに個性光るひなかざりができあがりました。



▲バンドで桃の花をつけよう



▶表彰状を手にする村岡さん（左から2人目）